

■基本情報		日本オープンイノベーション			
取組・プロジェクト名称		「日本経済の復活」を「温故知新」から始める			
応募者【5名まで】 ※最上段に中心的役割かつ実務を担った代表をご記入ください		メンバー氏名	所属機関	役職	年齢
		森松義喬	株式会社 国際マイクロ写真工業社	取締役会長	58 歳
			株式会社 国際マイクロ写真工業社	営業・生産部等の各人	
		その他多数 首都圏ソフトウェア協同組合 関連者 等			
		日本大学 経済学部 ・ 大原学園（情報処理 等）			
問 合 せ 連 絡 先	氏名	森松義喬（もりまつ よしたか）			
	所属機関	株式会社 国際マイクロ写真工業社			
	電話番号	090-3104-2565（直通）			
	E-Mail	h@kmsym.com			
	住所	〒162-0833 東京都新宿区筆筈町 4-3（本社）			
応募区分		<input checked="" type="checkbox"/> 自薦 <input type="checkbox"/> 他薦			
■中心的役割を担う組織					
<input type="checkbox"/> 産業界（大企業） <input checked="" type="checkbox"/> 産業界（中小企業、ベンチャー企業） <input checked="" type="checkbox"/> 公的研究機関 <input checked="" type="checkbox"/> 大学・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> その他（日本の産・学・官・民の有識者）					
■取組が関連する分野（二つまで選択可）					
<input type="checkbox"/> 機械 <input type="checkbox"/> 船舶・海洋 <input type="checkbox"/> 航空・宇宙 <input type="checkbox"/> 電気電子 <input type="checkbox"/> 化学 <input type="checkbox"/> 繊維 <input type="checkbox"/> 金属 <input type="checkbox"/> 資源工学 <input type="checkbox"/> 建設 <input type="checkbox"/> 上下水道 <input type="checkbox"/> 衛生工学 <input type="checkbox"/> 農業 <input type="checkbox"/> 森林 <input type="checkbox"/> 水産 <input type="checkbox"/> 経営工学 <input type="checkbox"/> 情報工学 <input type="checkbox"/> 応用理学 <input type="checkbox"/> 生物工学 <input checked="" type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> 原子力・放射線 <input type="checkbox"/> 医歯薬・健康科学 その他（全国47都道府県にある古文書、そのデジタル化を促進）					
■希望する受賞名 第一希望：(④) 第二希望：(②)					
①科学技術政策担当大臣賞 ②総務大臣賞 ③文部科学大臣賞 ④厚生労働大臣賞 ⑤農林水産大臣賞 ⑥経済産業大臣賞 ⑦国土交通大臣賞 ⑧環境大臣賞 ⑨スポーツ庁長官賞 ⑩日本経済団体連合会会長賞 ⑪日本学術会議会長賞					
■本取組・プロジェクトに係る受賞歴、他賞への応募状況があればご記入ください					
「本取組」に直接的・間接的に通じています。 ★経済産業大臣「情報化促進貢献」受賞 令和3年10月 ★新宿区長「生き生き経営賞」受賞 平成10年2月 （上記2点を含め 国際マイクロ写真工業社のマスコミ等のご評価は下記の通りです） <a href="https://kmsym.com/iitai/houdai.htm#t5">https://kmsym.com/iitai/houdai.htm#t5</a>					

■組織・プロジェクトの概要（必ず箇条書きで簡潔にご記入ください。文字数：800字以内、推奨フォント：MS ゴシック、推奨サイズ：10.5pt）

800字以下

A:（各 評価のポイント毎にAから番号を付します）

●「産・官・学・民」:

が少しづつ妥協し、「古文書のデジカメ化」を47都道府県の高齢者等で実行できれば「日本経済の復活」は可能と成る。

●国際マイクロ写真工業社は:

世界一の古文書撮影技術力と実績を持つ。ニチマイ社やインフォマージュ社が「日本一」と言われるであろうが、唯一無二 古文書のデジカメ撮影の「能力」と「ソフト」と「経験」を持つ会社です。

●古文書撮影のプロ中のプロである当社:

が、十年以上かけて北海道から九州の「プロの同業社長」を説得し、80~90%の同意を得る、古文書（原寸400dpiの撮影の手法）を日本中の高齢者等に伝える手伝い、である。国際マイクロ写真工業社であれば「国立国会図書館の大量電子」以上の仕様にして（古文書のOCR変換可能な）日本中の各プロに指導できる。

当社にて約5千万円をかけて「当社が作成したアプリケーションソフト」も無償で貸し出す準備をし、日本中のデジタル化の品質管理の為に「仕様書の作成」は2020年に当社にて完成。

47都道府県に現地高齢者等への指導、その実行には「古文書を撮影する会社」の指導が必要である。「儲け過ぎない、損しない」、と約束してくれる各中小企業社長達の協力無くして、47都道府県の高齢者等に「古文書のデジカメ化」を教える事は出来ない。

●識字率世界最高峰:

を江戸以前から誇ってきた日本には、47都道府県内に「古文書」が大量に在り、それが所有者等にて「廃棄」されている。「世界遺産」、日本の古文書こそ、と海外の歴史学者から称賛。

●紙背文書等:

（手紙のミス等を障子に貼る・・・紙がもったいないので）等の古文書が、毎年デジカメ撮影もされぬままに（読めないために）大量に「廃棄」されている事実がある。その情報を書いた過去の「人の廃棄」となる。

●「原本の移動」:

以外は「重労働では無い仕事」。47都道府県に多くある「高齢者等の仕事」に最適な仕事。

【連携の目的】社会的ニーズへの貢献について（必ず箇条書きで簡潔にご記入ください。文字数：800字以内、推奨フォント：MS ゴシック、推奨サイズ：10.5pt）

800 字以下

- B: ・社会課題やニーズ対応のインパクト・影響の大きさ
- C: ・SDGs の課題設定や KPI を参考にした目標の設定
- D: ・政府の掲げる社会課題への対応
- E: ・将来の社会や産業の在り方への革新的インパクト・影響の大きさなど

B: 高齢者化・優秀な専業主婦の自宅待機・働けるのに働くチャンスが少ないニートや身障者：日本政府が（内需拡大策の一つとしてでも）47 都道府県で廃棄されている「古文書を救う」、日本中の強い味方と成ることが「政府の予算化」の決定で可能となる事が出来る。影響はあまりに大きすぎて計り知れない。

C: SDGS の課題： 17 ある目標の 11 の項目を稼働中。

D: 日本政府の課題：

少子高齢化の対策・クールジャパン戦略・地方の創生・一億総活躍社会の実現・高齢者 専業主婦 ニート 身障者等の新規の雇用・観光立国・新 郷土資料館・地域ブランドづくり・適地適作・お土産販売・地震等過去の記録の廃棄の阻止、等。

過去の記録の復活、温故知新。日本にとっての 見直し・未来への対応 と成ります。

E: 資本主義・民主主義：

の日本では、通常あり得ない提案と成ります。（「革命」と言われればそうかも知れませんが）識字率世界最高峰であった日本の古文書を、これ以上デジカメ撮影もせず、廃棄させる訳には行きません。

「教え代を貰えるのであれば」と、全国の名だたる古文書撮影の名門の同業社長の約 80~90%が教える事を了解をしてくれました。

日本政府の「予算化」が若干でもなれば、「様々な協力者」が現れる事を想定した動きが必要。各県知事が予算を担当。

例えば、ですが 1 年 1 億円、5 年間の予算等で 251 億円の準備が成れば、より具体的に進められます。最初のみ、1 億円は千葉や神奈川で実験をし（問題点をクリア）、翌年に残の 250 億を全国に稼働させる方法を考慮。最大で 6 年間 251 億の予算の対応が、国際マイクロ写真工業社では可能です。

●アメリカや中国：

北朝鮮・ロシア等の「核」の力に大きく左右される日本経済。

しかし「日本人」である安全性だけではなく、軍事力の関係しない「日本人」としての存在、それゆえ、原本の所有者等により「捨てられつつある古文書のデジタル化」が必要不可欠。

【連携の内容】先導性・独創性について（必ず箇条書きで簡潔にご記入ください。文字数：800字以内、推奨フォント：MSゴシック、推奨サイズ：10.5pt）

800字以下

- F： ・従前にはないプレーヤーの巻き込み
- G： ・互いの良いところを組み合わせ弱いところを補完する体制づくり
- H： ・適時適切なプロジェクトの進捗管理
- I： ・早めかつ包括的な知財戦
- J： ・参加機関や参加者のモチベーションを維持向上するコミュニケーション手法の導入など

F： 店頭公開している企業はなるべく巻き込まない。（株主総会等で可否を得る為）  
それ以外、産官学民の中で「日本経済の復活」を考えてくれる人が中心とする事。

G： 産官学民が、少しずつ譲歩して「目標」を叶えてくれる人。再教育が大きく必要な人以外を雇用する予定。

H： 最初の1年1億は実証実験。それにより洗い出される問題の解決。  
そのプロジェクトチームにはプロジェクトマネージャーを準備可能です。

I： 47都道府県に今在る「古文書」は、それぞれ知的財産。そのデジカメ化。

J： 参加者のモチベーション維持や教育は、コミュニケーションの手法としてSNSを駆使し、メールや動画配信などの対応も可能。

※ ただし全国のプロがお手伝い出来るのは「閑散期である5月～10月」の毎年の半年が理想です。  
これら「日本中の古文書を後世に」、と話す同業社長は当初は皆無でした。

恐縮ながら、これからも古文書の日本の統一が出来る会社は  
「国際マイクロ写真工業社以外には出来ない」と感じております。

<https://kmsym.com/bunken/8maiprinto.pdf>

**D● 何故？ 国際マイクロ：**

森松義喬が「諦める事が出来ない立場」である事をご理解下さい。

【連携の効果】客観的な効果と持続可能性について（必ず箇条書きで簡潔にご記入ください。文字数：800字以内、推奨フォント：MS ゴシック、推奨サイズ：10.5pt） 800字以下

連携の取組の効果が上がっているか、効果が上がる見込みがあるか、連携の実施において公的資金に過度に依存していないか、持続的かつ自立的な連携かなどをご記入ください。（概要図（文字数に含めない）の使用は可）

※必ず何らかの数値指標を所定の欄にご記入ください。（項目数は適宜追加/削減ください。）実績なのか見込みなのかがわかるようにご記入ください。

数値指標の例：取組プロジェクトにおける売上、利益、雇用創出、参加者数、賛同者数、資金調達額、予算規模、取組プロジェクトで実現する効率性、生産性の向上を示す数値、その他取組において設定した KPI 等

（評価のポイント）

K：連携の効果や持続可能性を示す定量的な数値

L：プロジェクトの効果と持続可能性を示す定性的な事項など

K・L：日本人の記録「古文書をデジタル化」して後世に残す使命は、現在日本に居る日本人の手に掛かっています。定量的・定質的・定性的な数値等を示す手立てが無い、との事をご理解下さい。

効果等を示す数値指標

- 「数値目標」は現在は明記出来ませんが「日本経済の復活」の為に下記を森松義喬がお約束致します。

記

- ・日本人の「知的財産の確保」の一步となる。
- ・「6年間で効果を」との、以前の「大問題」であり、日本を動かす与野党の先生方に少しでも「[現状の悲惨さ：動画 15分48秒](#)」が理解されるまで、森松義喬は「正しい情報を提供」して行く所存。
- ・「歴史を大切」にする事に気が付いているヨーロッパ諸国、識字率世界最高峰の日本の知的財産を守る為です。（少し遅すぎますが）
- ・「古文書デジカメ撮影」の実行の準備は、十年以上掛けてほぼ整っております。
- ・森松義喬は、協力者と共に「日本経済の復活」に寄与して行きます。